

銅輸出、スクラップが外需旺盛で増加

自動車、販売は増加率縮小、住宅着工増加

橋本健一郎氏リポート①

国際概況



橋本健一郎氏

七月前半は変異株による感染拡大から世界経済回復の遅れ、六月の中国財新製造業PMIが予想や前

回を下回ったこと、五月の日本の鉱工業生産が前月を下回ったことなどのマイナス材料もあつたが、六月の米雇用統計の発表後、ドル安となつたこと、米長期金利の低下、中国人民銀行が中小企業向け融資を増大（準備率引き下げ）させるなどの報などを好感し、LME銅相場はUP、七月十五日時点で九三〇九ドル（セツル）と月初価格より一三ドルUPの前半締め。

後半は米公開市場委員会（FOMC）開催を控え、テーパリングの議論が警戒されたことによる持ち高調整と、中国のIT・教育への規制をうけた世界的株安連鎖などのマイナス材料もあつたが、米公開市場委員会（FOMC）でパウエル議長の会見が早期の量的緩和縮小（テーパリング）に慎重な印象だったこと、中国第2四半期GDPがほぼ予想通りの五期連続の成長となったことを好感し、LME銅相場はUP、七月末日現在、後半スタート価格から四三四ドルUPの九七八ドル。七月スタート建値は一一二万円。

■前月の経済指標
●月間のドル/円レイト（TTS）
一一・二六六→一〇・七三（円）。

自動車生産台数

生産動向統計によると、六月の自動車生産台数は前年比四一・四％増の六九万四、二四台、輸出は七六・三％増の三万九、〇一四台。

自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、七月の自動車販売台数（軽除く）は前年比三・三％増の二四万七、一四八台。

六月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比七・三％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・〇％の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万六、三一二戸で前年同月比七・三％増と、四カ月連続の増加。新設住宅着工床面積は六、二九五千㎡で前年同月比七・四％増と、三カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八六万六千戸で前月比一・〇％減と、二カ月連続の減少。

貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が三七・一％減の四万二、六四六、スクラップが四〇・一％増の三万八、三七九、輸入は電気銅が前年比五四・七％減の四九五、スクラップが七八・八％増の八、八九五。

前月の国内指標

六月伸銅品生産量は前年同月比四八・六％増加の六万八、六〇〇、半導体不足とそれに伴う自動車生産減の直接の影響はまだ見えてこない。

日本電線工業会発表の出荷速報（推定）によると、銅電線出荷量は前年比三七・七％増の五万二、八〇〇であった。

自動車生産

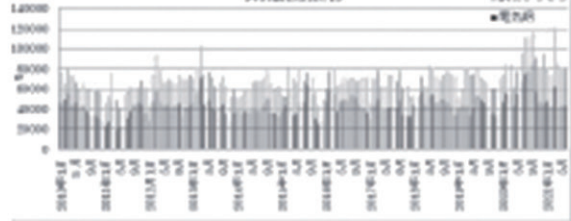
生産動向統計によると、六月の自動車生産台数は前年比四一・四％増の六九万四、二四台、輸出は七六・三％増の三万九、〇一四台。

自動車販売

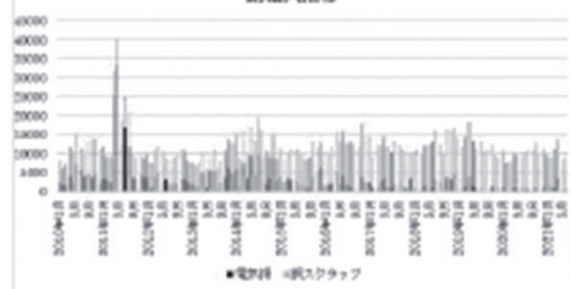
日本自動車販売協会連合会によると、七月の自動車販売台数（軽除く）は前年比三・三％増の二四万七、一四八台。うち乗用車二・五％増、貨物九％増、バス三・三％減。

（六面へ続く）

銅輸出推移



銅輸入推移



LME銅・今日はデルタ株の動向、米中の景気動向がカギに

(四週より続く)

【住宅着工戸数】

六月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、賃貸及び貸家が増加したため、全体で前年同月比七・三％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・〇％の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万六千三百二十二戸で前年同月比七・三％増と、四カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六・二九五千万㎡で前年同月比七・四％増と、三カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八万六千六百六十戸で前月比一・〇％減と、一カ月連続の減少。

【伸銅品生産】

六月伸銅品生産量は前年同月比四八・六％増加の六万八千六百〇〇と、半導体不足とそれに伴う自動車生産減の直接の影響はまだ見えてこない。

銅糸は前年同月比九カ月前連続のプラス。銅糸単体の生産量は六月も二〇一八年の同月実績を超えた。半導体関連の需要が引き続き良い。アジア諸国において、新型コロナウイルス感染症に伴う感染拡大によるロックダウンも、まだ銅糸生産への影響が見えない。半導体不足に伴う自動車生産減少に対しては、今後、自動車メーカーの挽回生産が進むものと考えて、部品の在庫積み上げを進めているため、こちらも銅糸生産への影響が見えて来ない。黄銅棒は同比五カ月前連続のプラス。ただ、二〇一八年同月実績を上回った。住宅設備関連が緩やかに回復。家庭用ガス機器は国内需要期を過ぎているが、海外輸出向けが好調に推移。水栓金具向けは、新規住宅着工が少ないが、リフォーム関連が好調で、こちらが牽引している。

【電線出荷】

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比二七・七％増の五万二・八〇〇と。

うち国内三八・八％増、輸出が〇・八％増。

【輸出】

電気銅輸出が三七・二％減の四万二・六四六と、銅スクラップが四・二％増の三万八千三百九と。

【輸入】

電気銅が五四・七％減の四九五と、スクラップが七・八％増の八・八九五と。

【見通し】

六月の自動車生産が四・四％増。七月国内販売台数が前年比三・三％増。生産急増は半導体不足の影響はないとの認識。ただし販売の増加率が縮小してきている。今後生産、特に販売が増加していくか注視。六月伸銅品生産量は前年同月比四八・六

％増加の六万八千六百〇〇と。半導体不足とそれに伴う自動車生産減の直接の影響はまだ見えてこない。

更に増加するか注目。

・日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比二七・七％増の五万二・八〇〇と。うち国内三八・八％増、輸出が〇・八％増。内外とも増加率が縮小。内外ともにプラスが続くか注視。

・銅輸出は電気銅が内需要因から減少、スクラップは外需旺盛に伴い増加。

・銅輸入は電気銅が内需玉から急減、スクラップは内需回復から増加。

【スクラップ懸念予想】

流通(二次回用)在庫は、銅建値が一〇九万円から一時一段下の一〇五万円まで急落した(その後二二万円まで回復)ことから、発生が無く在庫薄。

需要面に関して、前月に続き、半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的になく、生産は急増傾向にある。銅建値は急落したが、その価格での販売に躊躇する問屋も多く、定期で入るないメーカーが高値買いの傾向も見受けられる。

【LME・為替予想】

今日は①コロナ感染拡大動向(デルタ株による)②米中の景気動向に左右される。

①に関して

ワクチン接種によって感染拡大が治まった欧米が、新株(デルタ株)に再び感染拡大の危機に陥っている。ただ、感染はするが、実麻のところで死者数は極端に減った。例えば人口の七二％がワクチン接種を終えている英国では死亡率がほぼゼロになってきており、感染拡大が防げるのではないかと。

②に関しては

直近の景気指標で中国が七月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は五〇・四と、前月の五〇・九から低下し、中国政府が新型コロナウイルス対策でロックダウン(都市封鎖)を開始した二〇二〇年二月(三五・七)以降で最低となったこと、米国の七月の米製造業景況感指数は五九・五と前月から低下し、ダウ・ジョーンズ主要市場予想(六〇・八程度)も下回ったことなどから、追加的景気対策が無ければ失速するのではないかと。これらを踏まえた八月の銅価格は、九、〇〇〇〜一〇、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇九円〜一一二円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては一〇二万〜一一五万円程度と予測している。